

PACガーディアンズ通信

PAC-Guardians



第2号

2007年6月1日

おかげさまで PAC ガーディアンズは、NPO 法人として設立してから早や1周年を迎えました。その1周年記念講演として1月28日、立教大学の河東田先生をお呼びし、スウェーデンのコンタクトパーソン事業についてお話をお伺いしました。また、3月には千葉県から支援頂いている血清事業財団の助成金を使わせて頂き、佐藤理事長、名川副理事長その他3名の理事5名で権利擁護で先進的な活動をしていらっしゃる西宮のPAS ネットやコンタクトパーソン事業に実績をもつ宇治市社会福祉協議会、多治見市のNPO 法人東濃成年後見センターにお伺いし、実践的で貴重なお話を伺ってきました。遅くなりましたが、そのご報告をさせていただきます。

《スウェーデンのコンタクトパーソン事業》

～河東田先生の講演から～

コンタクトパーソンは、1980年代に入って始まった事業で、各種法律に明示され、制度化された福祉サービスです。活動の内容は、買い物や手紙の返事の手伝い、社会参加の手助けなどさまざまに相談相手をすることもあります。コンタクトパーソンになるのに資格は問いません。友達になってくれる人なら誰でもなれます。受付は各自治体の窓口で、運営は手をつなぐ親の会（FUB）が行っています。コンタクトパーソンには、若干の手当てが支給（月に1万円程度）されます。

コンタクトパーソンがいることで、個人

的関心を発達させ、自分の友達を持ち、他の人と同様の個人的ライフスタイルを持つことができると考えられています。私たちが取り組んでいるコミュニティフレンドは、全日本育成会の『権利擁護システム構築に関する研究事業』に取り上げられました。

スウェーデンで多くの人々が利用する「コンタクトパーソン」を参考に、今行っている試行事業をさらに発展させ、いずれは制度として定着させ、全国に広げたいものです。（文・理事 田川）



《3月12・13日

宇治・東濃・西宮研修旅行報告》

早春というのにはまだ肌寒い3月12日、13日の2日間かけて、理事長以下総勢5名で、3ヶ所の権利擁護センターに行ってきました。各地にその土地に根付いた権利擁護の活動があり、沢山の魅力的な人に会いました。

トップバッターは西ノ宮のPASネット。西ノ宮の町はバリアフリーが進んでいます。理事長の上田晴男氏は権利擁護支援全国ネットワーク形成への取り組みのため、全国を飛び回っておられ、夏にはPASネットの皆さんが千葉へも来られる予定です。

次に、宇治市社会福祉協議会を訪問しました。コンタクトパーソン事業に6年の実績を持つところです。全国社会福祉協議会の事業から始まり、登録者は現在30名、活動期間は原則1年で終了ですが、継続も可能。基本はボランティアであり、利用料は1時間500円です。コンタクトパーソンと利用者のマッチングを2名のボランティアコーディネーターさんが担っており、彼らの頑張りでの活動が地域における社会資源になりつつあります。

最後に多治見市のNPO法人東濃成年後見センターにお邪魔しました。弁護士・司法書士・行政関係者・福祉施設関係者・医師・社会福祉士・住民等で法人を設立し法人後見による活動を行っています。多治見市・土岐市・瑞浪市3市が運営費を負担し、行政におけるトラブルのある

ケースの後見申し立て、受任を多く受けています。

事務局長の山田隆司氏は福祉の現場において利用者主体であることを常に考え、後見活動を始めた方です。パワフルな事務局長であり又後見人でもありました。

(文・理事 泉)



賛助会員継続のお願い

平成19年度に入り、PAC ガーディアンズもお蔭様でNPO法人として2年目を迎えることになりました。

これも、当法人の活動にご理解とご支援をくださる賛助会員の皆様のお陰でございます。ありがとうございます。

つきましては、今回の機関紙とともに賛助会員継続更新のお願いと振込み用紙を同封させて頂きました。

本年度も引き続き、ご支援・ご協力の程、お願い致します。

編集後記

第1回から半年以上たつての通信の発行となりました

賛助会員の皆様にはもっと早くご報告しなければならぬことがたくさんあるにもかかわらず、発行が遅くなり、申し訳ございません。

これからは、定期的に発行できるよう努めますので、宜しくお願い致します。

(担当：赤津・菊地)